

児童朝会 校長の話 6月12日

皆さん、落語を知っていますか。江戸時代から続く、日本の伝統芸能です。落語家は一人で何人もの役をやりながら、お話をします。衣装や道具は使わずに、手振りや身振り、扇子や手ぬぐいでいろいろなものを表して表現します。落語はホールの舞台上、高座と言われる一段高いところに、座布団を敷いて座って話します。



落語家になるためには、まず師匠に弟子入りします。そして前座見習い、前座、と修行を積んで二つ目。二つ目を約10年やって実力が認められると真打ちになれます。今年の9月



に真打ちになることが決まっている、林家木りんさんという落語家があります。木りんさんは浅草小学校の卒業生です。今までに2回浅草小学校に来てくださいましたが、本日、来てくださいます。そして、3・4年生

に落語を聞かせてくださいます。

木りんさんが「師匠」という本を書いています。表紙に「人生に大切なことはみんな木久扇師匠が教えてくれた。」と書いてあります。木りんさんがどうして落語家になったのか、本の内容を少しだけ紹介しますね。

「僕が初めて師匠の落語を生で聞いたのは、2007年、高校生の時だった。通っていた高校の「学校寄席」に師匠が出演したのだ。僕は落語に興味なんてまったくなく、そ



の日も、テレビで黄色い着物を着て「いやんばかん」と言っているにぎやかな人が来る、とい程度の認識だった。(中略)ところが、衝撃だった。あっという間の1時間半だった。中でも師匠の話はとてつもなく面白かった。(中略)げらげらわらっているうちに、たった一人、身ひとつで何百人を爆笑させてしまうそのエネルギーに、僕は強くひきつけられていた。」

こうして落語との縁ができて、落語家になられたのですね。落語家として活躍している卒業生がいることは誇りですね。3・4年生は素晴らしい卒業生に会えるのが楽しみですね。落語を楽しみましょう。